

第91期末 (2017年4月5日)

基準価額 10,726円

純資産総額 509百万円

第86期～第91期
(2016年10月6日～2017年4月5日)

騰落率 11.3%

分配金合計 320円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

ニッセイ

日本勝ち組ファンド

(毎月判定型)

追加型投信／国内／株式

交付運用報告書

作成対象期間：2016年10月6日～2017年4月5日

第86期 (決算日2016年11月7日) 第89期 (決算日2017年2月6日)

第87期 (決算日2016年12月5日) 第90期 (決算日2017年3月6日)

第88期 (決算日2017年1月5日) 第91期 (決算日2017年4月5日)

受益者の皆様へ


平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「ニッセイ日本勝ち組ファンド(毎月判定型)」は、このたび第91期の決算を行いました。

当ファンドは、「ニッセイ日本勝ち組マザーファンドⅡ」受益証券への投資を通じて、実質的に各業界をリードする“勝ち組企業”の株式へ投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

 **0120-762-506**(コールセンター)

受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。

 <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

当ファンドは、投資信託約款において、運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で運用報告書(全体版)をダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

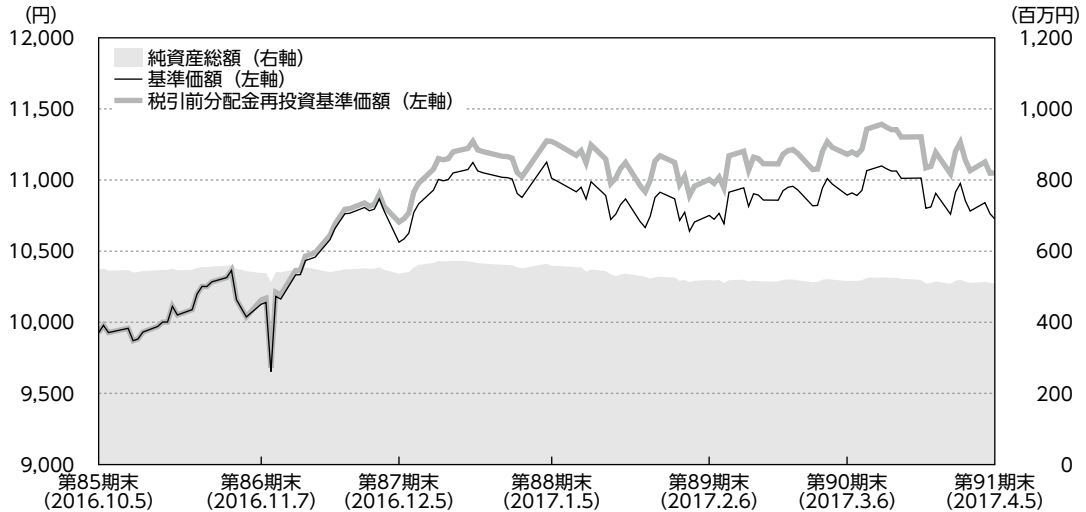
【ダウンロード方法】

上記ホームページ→ファンド検索→ファンド名入力→ファンド詳細ページ→運用レポート→運用報告書(全体版)

運用経過

2016年10月6日～2017年4月5日

基準価額等の推移



| | | | |
|-------|---------|-----------------|-------|
| 第86期首 | 9,927円 | 既払分配金 | 320円 |
| 第91期末 | 10,726円 | 騰落率 (分配金再投資ベース) | 11.3% |

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前作成期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドはベンチマークを設けていません。以下同じです。

基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は、当作成期初は、米大統領選で共和党のドナルド・トランプ氏が勝利したこと、同氏が掲げる政策に対する思惑や米連邦準備制度理事会（F R B）による追加利上げを受け、急速に進行した米長期金利の上昇や米ドル高円安を背景に、金融株や輸出関連株を中心として株式市場が大幅に上昇したことから、右肩上がりの展開となりました。年始以降は、トランプ新大統領の掲げる政策の実現性を見極める形で一進一退の動きとなりましたが、前作成期末と比較すると、基準価額は大幅に上昇して当作成期末を迎えました。

ニッセイ日本勝ち組ファンド（毎月判定型）

1万口当たりの費用明細

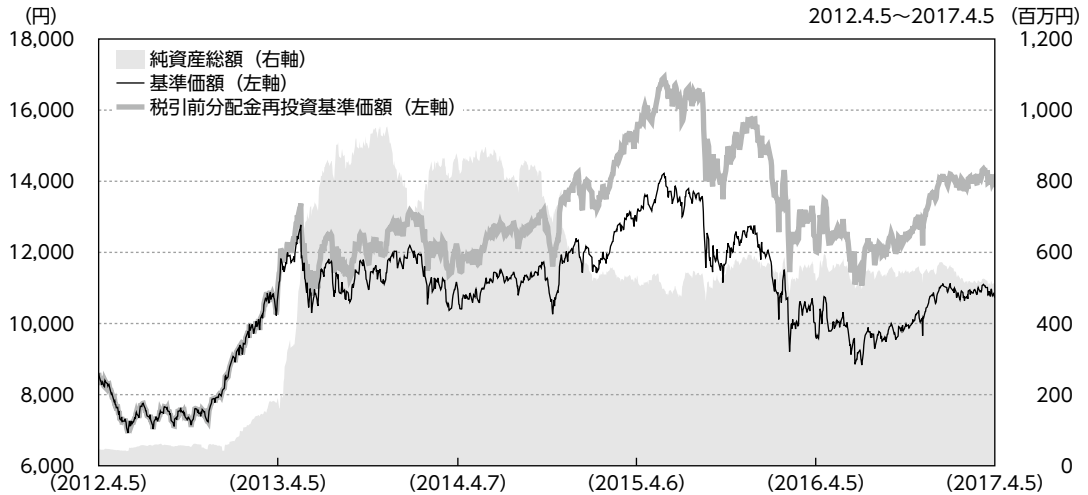
| 項目 | 第86期～第91期 | | 項目の概要 |
|------------|-----------|---------|---|
| | 金額 | 比率 | |
| 信託報酬 | 57円 | 0.537% | $\text{信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は10,692円です。 |
| （投信会社） | (26) | (0.242) | ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価 |
| （販売会社） | (26) | (0.242) | 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 |
| （受託会社） | (6) | (0.053) | ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価 |
| 売買委託手数料 | 0 | 0.001 | $\text{売買委託手数料} = \text{期中の売買委託手数料} / \text{期中の平均受益権口数}$ 売買委託手数料：有価証券等の売買・取引の際に仲介人に支払う手数料 |
| （先物・オプション） | (0) | (0.001) | |
| その他費用 | 1 | 0.005 | $\text{その他費用} = \text{期中のその他費用} / \text{期中の平均受益権口数}$ |
| （監査費用） | (1) | (0.005) | 公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用 |
| （その他） | (0) | (0.000) | <ul style="list-style-type: none"> ・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息 |
| 合計 | 58 | 0.543 | |

(注1) 作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

最近5年間の基準価額等の推移



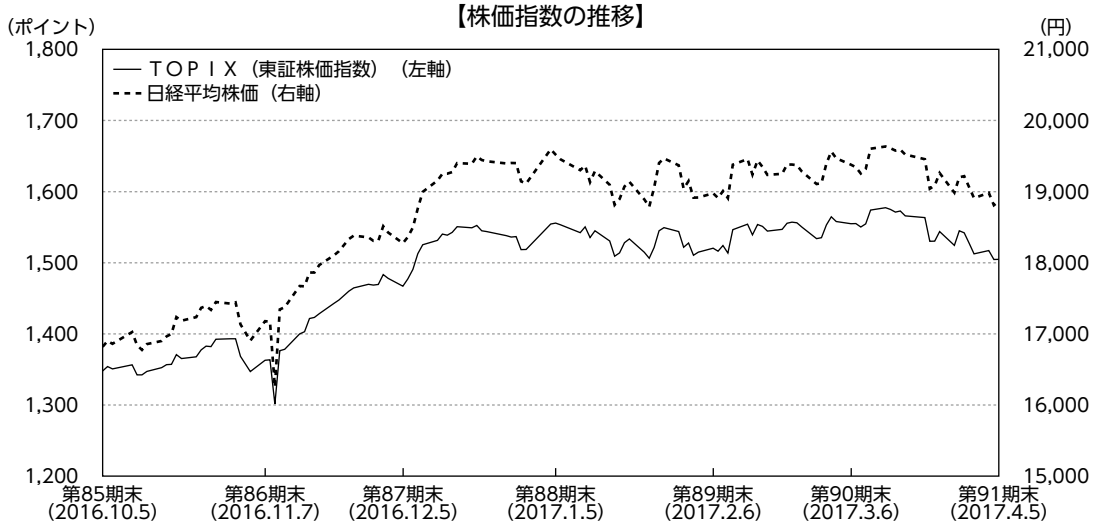
(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、2012年4月5日の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

| 決算日 | | 2012年 4月5日 | 2013年 4月5日 | 2014年 4月7日 | 2015年 4月6日 | 2016年 4月5日 | 2017年 4月5日 |
|-------------------|-------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 基準価額（分配前） | (円) | 8,610 | 10,770 | 10,944 | 12,873 | 9,636 | 10,726 |
| 期間分配金合計（税引前） | (円) | － | 250 | 850 | 870 | 710 | 370 |
| 税引前分配金再投資基準価額の騰落率 | (%) | － | 28.0 | 9.3 | 26.4 | △20.7 | 15.2 |
| 参考指数騰落率 | (%) | － | 28.1 | 12.2 | 30.4 | △18.7 | 18.6 |
| 純資産総額 | (百万円) | 46 | 190 | 860 | 523 | 520 | 509 |

(注) 参考指数はTOPIX（東証株価指数）です。以下同じです。

国内株式市況



(注) 各指数はブルームバーグのデータを使用しています。

当作成期初から年末にかけては、11月8日に実施された米大統領選で共和党のドナルド・トランプ氏が勝利したことから、同氏が掲げる財政支出の拡大や規制緩和等の政策に対する思惑、FRBによる追加利上げを受け、急速に進行した米長期金利の上昇や米ドル高円安を背景に、国内企業の業績回復に対する期待が高まり、株式市場は大幅に上昇する展開となりました。

年始以降は、トランプ新大統領の政策をめぐる不透明感、ロシアの地下鉄爆発事件や北朝鮮の弾道ミサイル発射等、地政学リスクへの警戒感が上値を抑え、結局、日経平均株価は18,861円27銭（前作成期末比騰落率+12.1%）で当作成期末を迎えました。TOPIX（東証株価指数）も同様の動きとなり、1,504.66ポイント（前作成期末比騰落率+11.6%）で当作成期末を迎えました。

ポートフォリオ

■当ファンド

マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保った運用を行いました（なお、当ファンドから信託報酬等の費用を控除する関係などから、当ファンドの収益率はマザーファンドとは必ずしも一致しません）。

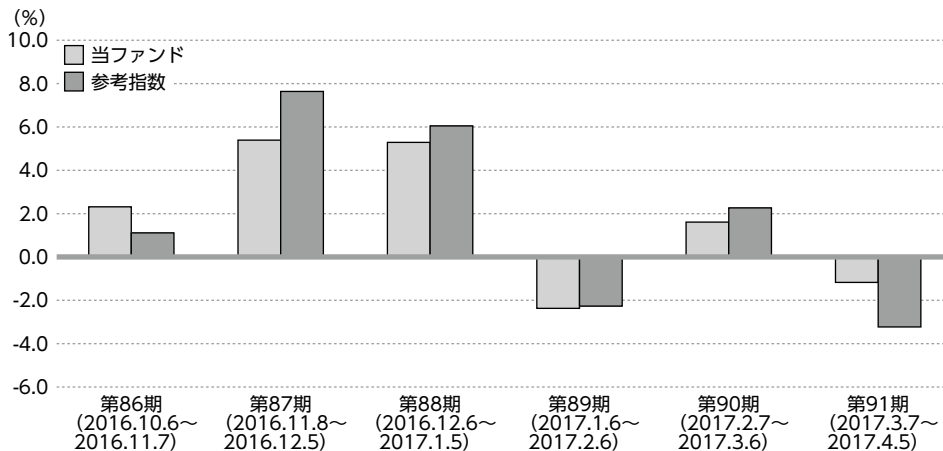
■マザーファンド

東京証券取引所第一部上場銘柄を対象として、各業界をリードする“勝ち組企業”の中から選出された30銘柄に等金額投資を行い、その後の設定・解約に応じて組入・売却などを実施し、株式先物の買い建てを含めた組入比率は100%に近い水準を維持しました。

組入銘柄については原則として年1回、6月に見直しを行うため、当作成期は銘柄入れ替えを行いませんでした。

また、各銘柄の比率については等金額投資を基本としているため、定期的によりバランス（時価変動による組入比率の振れの修正）を行います。当作成期は、2016年12月20日と2017年3月22日に実施しました。

参考指数との差異



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

当作成期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は+11.3%となり、参考指数騰落率（+11.6%）を下回りました。

これはマザーファンドにおける個別銘柄要因において、日本たばこ産業、セブン&アイ・ホールディングス等がマイナスに働いたことなどによるものです。

分配金

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を考慮の上、下表の通りとさせていただきます。

なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳（1万口当たり）】

| 項目 | 第86期 | 第87期 | 第88期 | 第89期 | 第90期 | 第91期 |
|------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 2016年10月6日 ～ 2016年11月7日 | 2016年11月8日 ～ 2016年12月5日 | 2016年12月6日 ～ 2017年1月5日 | 2017年1月6日 ～ 2017年2月6日 | 2017年2月7日 ～ 2017年3月6日 | 2017年3月7日 ～ 2017年4月5日 |
| 当期分配金（税引前） | 30円 | 110円 | 110円 | － | 30円 | 40円 |
| 対基準価額比率 | 0.30% | 1.03% | 0.99% | － | 0.27% | 0.37% |
| 当期の収益 | － | 1円 | 23円 | － | 5円 | 40円 |
| 当期の収益以外 | 30円 | 108円 | 86円 | － | 24円 | － |
| 翌期繰越分配対象額 | 6,097円 | 5,989円 | 5,903円 | 5,903円 | 5,879円 | 5,901円 |

（注1）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■当ファンド

引き続き、マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に国内の株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。

■マザーファンド

医療保険制度改革法（オバマケア）の代替法案の撤回をきっかけにトランプ米大統領の政策遂行能力に対する疑念が高まっており、減税やインフラ投資といった看板政策の行き詰まりへの警戒感から、株式市場は上値の重い展開が続くと考えています。シリア情勢や北朝鮮問題等、足元で地政学リスクが急速に高まっていることも上値を抑える要因となります。一方で、米経済指標の改善が続いていることや、相場の下落局面では日銀による上場投資信託（ETF）買いが期待されることから、下値も限定的であると予想しています。

国内企業は2017年度に2桁の増益が見込まれています。相場全体のこう着感が強まるなか、4月下旬から本格化する3月決算企業の通期決算の発表に向けては、外部要因に左右されず、独自の強みで業績を拡大していける企業が選好される展開となると予想しています。

相場全体の大幅な上昇は見込みづらいものの、当マザーファンドが組み入れている勝ち組企業のパフォーマンスは、相対的に優位な展開が期待できると考えています。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

組入ファンド

| | 第91期末 2017年4月5日 |
|-------------------|--------------------|
| ニッセイ日本勝ち組マザーファンドⅡ | 100.4% |

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

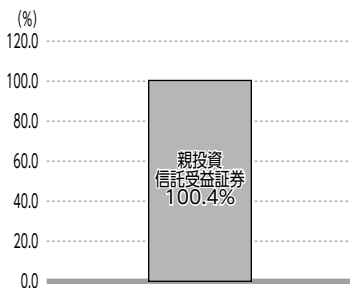
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

純資産等

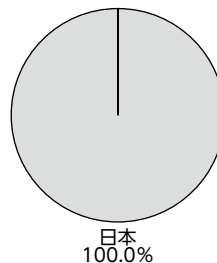
| 項目 | 第86期末 2016年11月7日 | 第87期末 2016年12月5日 | 第88期末 2017年1月5日 | 第89期末 2017年2月6日 | 第90期末 2017年3月6日 | 第91期末 2017年4月5日 |
|------------|---------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 純資産総額 | 538,459,902円 | 536,744,872円 | 558,880,170円 | 518,959,916円 | 516,177,869円 | 509,113,086円 |
| 受益権総口数 | 531,720,468口 | 508,144,824口 | 507,517,438口 | 482,702,025口 | 473,830,992口 | 474,662,393口 |
| 1万口当たり基準価額 | 10,127円 | 10,563円 | 11,012円 | 10,751円 | 10,894円 | 10,726円 |

(注) 当作成期間（第86期～第91期）中における追加設定元本額は43,187,458円、同解約元本額は120,525,531円です。

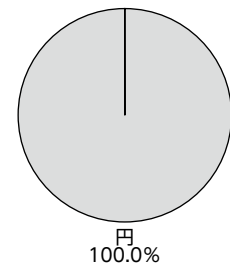
資産別配分



国別配分



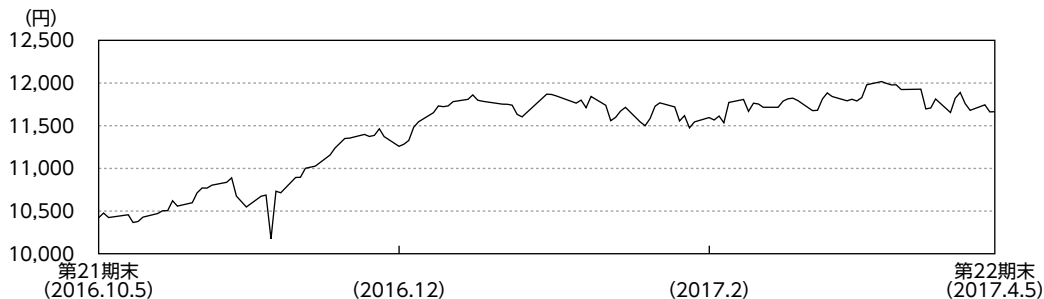
通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2017年4月5日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

ニッセイ日本勝ち組マザーファンドⅡの概要

■ 基準価額の推移



■ 上位銘柄

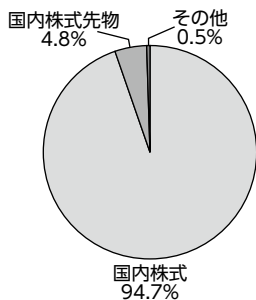
| 銘柄名 | 通貨 | 比率 |
|------------------|----|------|
| セブン&アイ・ホールディングス | 円 | 3.3% |
| 明治ホールディングス | 円 | 3.3 |
| 東京瓦斯 | 円 | 3.3 |
| 花王 | 円 | 3.3 |
| サントリー食品インターナショナル | 円 | 3.3 |
| ソニー | 円 | 3.3 |
| ダイキン工業 | 円 | 3.2 |
| 東日本旅客鉄道 | 円 | 3.2 |
| テンブホールディングス | 円 | 3.2 |
| 日本電産 | 円 | 3.2 |
| 組入銘柄数 | | 30 |

■ 1万口当たりの費用明細

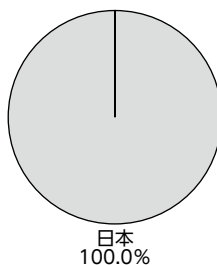
2016.10.6~2017.4.5

| 項目 | 金額 |
|-----------------------|-----------|
| 売買委託手数料 (先物・オプション) | 0円 (0) |
| その他費用 (その他) | 0 (0) |
| 合計 | 0 |

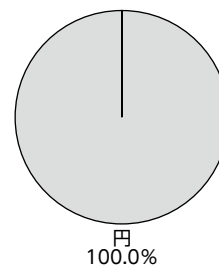
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



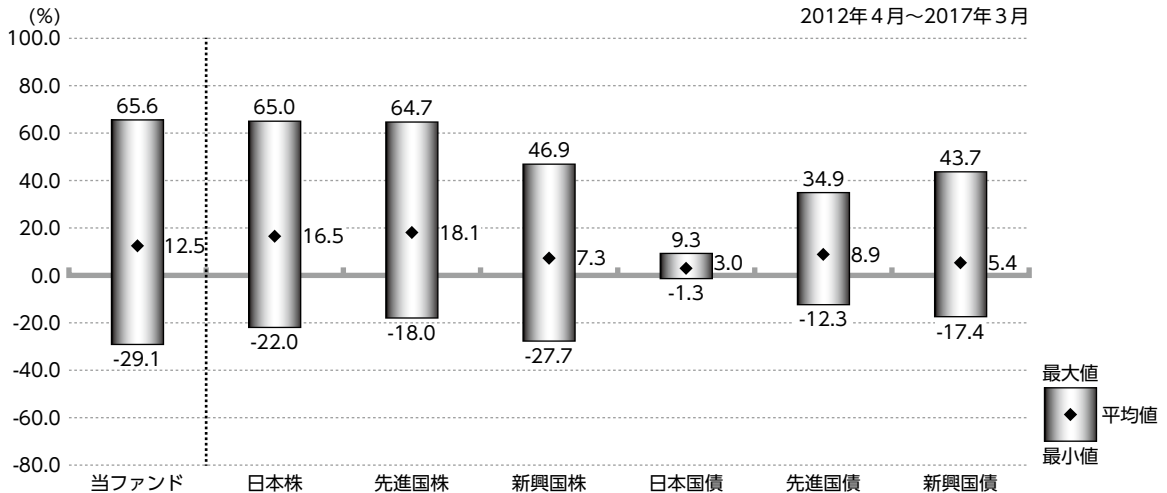
(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日（2017年4月5日現在）のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の組入有価証券明細表をご参照ください。

参考情報

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- (注1) 上記は、当ファンドの騰落率（税引前分配金再投資基準価額騰落率）と代表的な資産クラスの騰落率を比較したものであり、各資産クラスは当ファンドの投資対象を表しているものではありません。
- (注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。

<代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数>

- 日本株・・・TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
 - 先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
 - 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
 - 日本国債・・・NOMURA-BPI国債
 - 先進国債・・・シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
 - 新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ベース）
- ・すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・海外の指数は、「為替ヘッジなし（対円）」の指数を採用しています。

- ・TOPIX（東証株価指数）は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、株式会社東京証券取引所が有しています。
- ・MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任を負いません。
- ・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCが開発した債券指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。
- ・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドは、JPモルガン社が算出する債券インデックスであり、その著作権および知的所有権は同社に帰属します。

お知らせ

■運用体制の変更について

新たに統括部長（運用部門）を任命し、チーフ・インベストメント・オフィサー（C I O）を1名から2名体制にしました。あわせて、役職名称をC o - C I Oに変更しました。

（2017年3月25日）

当ファンドの概要

| | | |
|---------|--|--|
| 商 品 分 類 | 追加型投信／国内／株式 | |
| 信 託 期 間 | 2009年8月19日～2019年10月7日 | |
| 運 用 方 針 | ニッセイ日本勝ち組マザーファンドⅡ受益証券への投資を通じて、実質的に各業界をリードする“勝ち組企業”の株式へ投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。 | |
| 主要運用対象 | ニッセイ日本勝ち組ファンド（毎月判定型） | ニッセイ日本勝ち組マザーファンドⅡ受益証券 |
| | ニッセイ日本勝ち組マザーファンドⅡ | 国内の株式 |
| 運用方法 | ニッセイ日本勝ち組ファンド（毎月判定型） | 以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資は行いません。 |
| | ニッセイ日本勝ち組マザーファンドⅡ | 以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資は行いません。 |
| 分 配 方 針 | 毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。決算日の基準価額が前月決算時より値上がりし、1万円を超えている場合、原則として値上がり額の一部を分配します。また、4月および10月の決算においては、基準価額の動向にかかわらず、原則として組入株式から得られる配当収入を勘案した分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。 | |